

第4章 河川整備計画の目標

第1節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

戦後最大規模の洪水への対応

庄川の洪水氾濫から沿川地域を防御するため、計画規模の洪水への対応を長期的な目標としつつ、本計画では、戦後最大洪水に相当する規模の洪水を計画高水位（H.W.L）以下で安全に流下させます。

戦後最大洪水を安全に流下させるため、利賀ダム整備により全川にわたって洪水時の水位を低下させるとともに、堤防の高さや幅が不足している箇所における堤防整備、治水上のネックとなっている和田川合流点処理や万葉線橋梁（加越能鉄道橋）、新庄川橋（旧）の架け替え等を行います。

表 4-1 庄川水系における河道配分流量

河川名	地点名	地先名	河道配分流量 (目標流量)	備考
庄川	雄神	富山県砺波市上中野	4,000m ³ /s (4,200m ³ /s)	

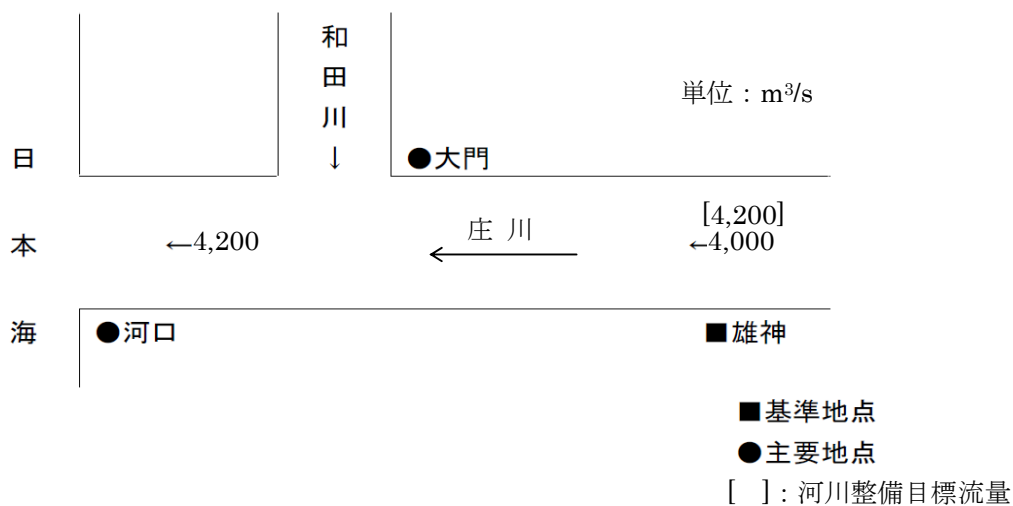


図 4-1 主要地点における河道配分流量

「急流河川」特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防等の安全確保

急流河川特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防の安全を確保するため急流河川対策を行い、氾濫被害を防止します。

庄川は扇状地地形及び天井川区間が存在していることから甚大な氾濫被害のポテンシャルを有しています。急流河川特有の洪水時の流水の強大なエネルギーに対する堤防の安全を確保するためには、堤防区間全体において急流河川対策を実施する必要があります。

本計画では、現状の堤防及び護岸の整備状況や河道内地形を基に特に危険な区間を抽出し、背後地のダメージポテンシャルが大きく緊急性の高い箇所から順次、急流河川対策を実施します。

危機管理体制の強化等

河川の増水や堤防が決壊した場合の氾濫域の拡大が急激であることを踏まえ、ハード・ソフト両面で水防管理体制の強化・充実を推進し、内水も含め被害を最小化する「減災」を図ります。

近年、全国的に多発している局地的な豪雨など、地球温暖化等の影響も踏まえ、計画規模を上回る洪水や整備途上段階での治水施設の能力以上の洪水による氾濫が発生した場合においても被害を最小限にとどめる「減災」を図るため、CCTV（河川監視カメラ）等の監視設備の充実や霞堤の機能維持に向けた取り組み等を実施します。

ソフト対策としては、短時間で発生する洪水や氾濫域の拡大が急激なこと等を踏まえ、県、関係市町及び報道機関等との迅速な情報の収集、伝達体制の充実を図るとともに、地域住民が行動しやすいよう、河川の災害関連情報（河川水位、水防警報、洪水予報、浸水情報等）を地域住民に提供します。また、情報の収集体制の強化と水位予測システムの高度化等により情報の質の向上を図ります。

更に、水防資機材の確保及び水防訓練等の水防団の活動支援や関係市町が実施する洪水ハザードマップ作成を積極的に支援していくとともに、地域住民参加型の防災訓練の実施等、地域住民の防災意識向上に向けた取り組みを実施します。

大規模地震等への対応

近年、隣県で頻発している大規模地震に鑑み、地震による損傷・機能低下のおそれのある河川管理施設について必要な対策を実施し、地震後の壊滅的な浸水被害を防止します。

近年、隣県で頻発している大規模地震に鑑み、地震対策として、供用期間中に想定される地震で河川構造物やダムが損傷しないよう、将来にわたり想定される最大級の地震で河川構造物が沈下・崩落した場合でも浸水による2次被害が発生しないよう、また、ダムが損傷した場合でもダムの貯水機能が維持されるとともに、生じた損傷が修復可能な範囲にとどまるよう必要な調査を実施し、耐震補強等必要な対策を進めます。

第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

流水の正常な機能の維持

庄川の水が恩恵をもたらす地域全体で合理的な水利用を促進するとともに、アユをはじめとする多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を良好に保つなど庄川の流水の正常な機能を維持するよう努めます。

庄川用水合口ダム下流地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は概ね8.4 m³/sであり、利賀ダムからの放流と合わせ流量の確保に努めます。

良好な水質の維持

継続的なモニタリングを実施するとともに、関係機関と連携して良好な水質の維持に努めます。

環境基準を満足する良好な水質を維持するため、代表地点における継続的な水質モニタリングを行うとともに関係機関との連携を図り、目標水質の維持に努めます。

また、県、関係市町及び地域住民と連携し、水質悪化につながるゴミの不法投棄対策の推進等、水質保全に向けた取り組みを実施します。

第3節 河川環境の整備と保全に関する目標

自然環境の保全及び生物の生息・生育環境の連続性の確保

湧水によるワンド・タマリや連続した早瀬・平瀬等における豊かな自然環境や広い石河原や砂州などの河川景観の保全に努めます。また、河道内だけでなく堤内地も含めた動植物の生息・生育・繁殖環境の連続性に配慮します。

定期的なサイクルで発生する洪水による「破壊」とその後の「再生」を繰り返すことなどが特徴である、庄川らしい河川環境の保全を図ります。具体には、豊かな環境を形成する扇状地下流部をはじめ、湧水によるワンド・タマリや連続した早瀬・平瀬等における豊かな自然環境や広い石河原、砂州などの河川景観の保全に努めます。

河道掘削や堤防整備等においては、河川環境の保全を原則としつつ、改変範囲の最小化、影響の低減を図っていきます。

また、河道内だけでなく堤内地も含めた動植物の生息・生育・繁殖環境の連続性に配慮します。水路や水田に関しては、現在、「身近な水域における魚類等の生息環境改善のための事業連携方策の手引き（平成16年3月）」が作成され、環境との調和に配慮した農業水路整備等が進められています。これら魚類の生活史において必要な環境の保全・再生の接続に寄与するため、関係機関と連携を図り、流域内の魚類等の移動性向上を図っていきます。また、利賀ダムについても同様に自然環境の保全、開発の影響の軽減を図ることを基本としていきます。

河川空間の利活用、歴史的・文化的施設の活用、連携・協働による河川管理の推進

流域の歴史、文化、自然との調和を図り、アユ釣り、川遊び、スポーツ、祭事等の活動の水辺空間や河川利用に関する多様なニーズを踏まえ、地域と水辺一体となって、人と河川との豊かなふれあいを増進するとともに、住民の河川美化活動と連携した住民参加型の河川管理を推進します。

庄川沿川の歴史的・文化的施設、地域の施設等と有機的に連携するとともに、地域の要請を踏まえて自然環境や水と親しむ活動等を普及・発展させる環境づくりを推進します。

また、ボランティアサポートプログラム等の活用により、河川美化活動等を支援し、協働による住民参加型の河川管理を推進していきます。

第4節 河川の維持管理に関する目標

既存ストックの有効活用を図るための、効率的・効果的な維持管理の実施

河川管理施設が本来の機能を発揮できるよう、施設の現状を的確に把握するとともに状況に応じた改善策を行い、「治水」「利水」「環境」の目的を達成するための必要なレベルを持続させるよう努めます。

庄川の維持管理の実施にあたっては、庄川の河川特性を十分に踏まえ、「災害の発生の防止」、「流水の正常な機能の維持」、「河川環境の整備と保全」、「河川の適正な利用」等の観点から洪水時や渇水時だけでなく平常時から庄川の有する機能が十分発揮できるよう、河川管理上の重点箇所や具体的な維持管理の内容を定めた計画を作成するとともに、河川の状態変化の監視、状態の評価、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした「サイクル型河川管理」により効率的・効果的な管理を実施します。